

研究協力のお願

神奈川歯科大学附属病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

コーンビーム CT 画像による顎口腔領域の形態計測

1. 研究の対象および研究対象期間

研究の対象： 本学附属病院矯正歯科来院患者、本学附属横浜クリニック矯正歯科来院患者、共同研究者機関（スエズカナル大学矯正歯科・釜山大学校歯科病院矯正歯科）を訪れた患者 600 名、2004 年 4 月から 2030 年 12 月 31 日までに共同研究者機関に保存してある適用可能な既存カルテ等。2020 年 1 月以降は、オプトアウトで同意を得る。骨成熟度についても検討することから成長発育途中の未成年者も含む。

研究対象期間： 2020 年 1 月から 2031 年 3 月 31 日まで

2. 研究目的・方法

【研究の目的】 コーンビーム computed tomography (CBCT) は、二次元平面状の検出器に円錐状の X 線を照射することにより、一回転のみで対象領域のボリウムデータを獲得することが可能である。CBCT の利点は、撮影時間の短縮と等方性データにより高い解像度が得られることである。CBCT は口腔外科、インプラント、歯内療法、歯周治療、顎関節症、小児歯科、矯正歯科とさまざまな分野の歯科治療に利用され、その有用性が報告されている。一方、矯正診断において頸椎を含む顎口腔領域を包括的に評価することは不正咬合の原因を排除し、良好な咬合を維持することのできる治療目標を検討する上で重要である。これまでの歯科矯正診断ではセファロが用いられてきたが水平的（冠状面）あるいは立体的評価は不可能であった。本申請課題ではコーンビーム CT 画像により頸椎を含む顎口腔領域を形態計測し、歯科矯正診断に役立つ情報を獲得することを目的とする。

【方法】 本学附属病院矯正歯科来院患者、本学附属横浜クリニック矯正歯科来院患者、共同研究者機関（スエズカナル大学矯正歯科・釜山大学校歯科病院矯正歯科）を訪れた患者 600 名、2004 年 4 月から 2030 年 12 月 31 日までに共同研究者機関に保存してある適用可能な既存カルテ等。2020 年 1 月以降は、オプトアウトで同意を得る。骨成熟度についても検討することから成長発育途中の未成年者も含む。側面頭部 X 線規格写真または CBCT がその患者の診断、治療に必要と判断され、撮影されたもの。改めて患者をデータ取得のために呼ぶことはない。**研究期間** 研究倫理審査委員会承認日～2031 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録番号、年齢、診断名、既往歴、顔貌写真、コーンビーム CT 画像、パノラマエックス線画像、セファロ、口腔内模型

4. お問い合わせ先

神奈川歯科大学附属病院矯正歯科 山口徹太郎

電話番号：0468-22-8885

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：神奈川歯科大学附属病院矯正歯科 氏名：山口 徹太郎

住所：横須賀市小川町 1 番地 23 電話番号：0468-22-8885

研究責任者：山口 徹太郎

